

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370201008		
法人名	社会福祉法人 権現福祉会		
事業所名	グループホーム 清陽「たちばな館」		
所在地	熊本県八代市場町47番地1		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村報告日	令和6年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれた自然豊かな環境で、近所には保育園があり子ども達の元気な声が聞こえてくる。昨年より交流の機会が増え、ホームの広い芝生の庭は天気の良い日には子ども達の遊び場となり、一緒に庭にて交流している。保育園の行事のハロウィン、発表会時には来ホームしてもらい子ども達の歌や踊りを楽しみにしている。敷地内の畑では四季折々の旬の野菜を育て、収穫した新鮮な野菜は食卓に並べられ美味しく味わっている。地域との交流を重視し保育園や地域の行事に参加し又、四季を感じて頂く為に桜やつつじ、紫陽花見学等を計画し外出する機会を設けている。全職員が理念や運営方針を十分把握し又、認知症ケアを中心とした研修の機会を設け振り返りと学びを日々実践し継続してケアに活かせるよう努力している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5-22		
訪問調査日	令和6年2月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔ながらの田畑が広がる事業所での生活は穏やかであり、四季折々の景色の変化、庭の木花は喜びを感じることができます。今年は、コロナ5類移行後少しずつではありますが、近所の保育園から、行事だけでなく日常的な遊び場として事業所の庭への訪問があり、子ども達を見守り、交流する姿が再開しています。入居者の身体状況は様々ですが、今持つ力をなるべく持続させるため、また安全に配慮した取組みがなされており、食事時にはゆっくりと食事ができるように箸を使って頂いたり、「眠れなくなった」の訴えに対し「元になっていること」を考え検討したりと、具体的なケアの状況がありました。法人による職員研修や育成にも力を入れておられ、職員面談でも風通しの良い働きやすい環境である様子が聞かれました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて法人の理念、清陽理念、地域との係わりを示すサブ理念、運営方針を全職員で振り返りを確認する為に唱和し、理念の共有を図り意識を高めている。入居時、利用者、家族等に説明したり、運営推進会議の中で紹介したり、新規採用時にも研修にて説明している。1回/月の内部研修でも理念を念頭におき行っている。	法人理念・事業所理念は毎日の唱和の他、事業所パンフレットにも掲載し、運営推進会議等でも地域・家族等へも共有している。法人内での職員異動の際には事業所理念の説明も行っている。理念を踏まえ、職員の働きやすさは入居者へも返すことができるとの思いで職員にも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園のマラソン大会、どんどや等行事がある場合個々の体調及び、事業所の判断、その時の状況にて建物の中からの見学や庭からの見学にて参加している。又、保育園の子供たちの遊び場として庭を開放する事で、利用者と日常的に交流する環境が整っている。	コロナ5類移行後、少しずつではあるが地域や近隣事業所のイベントも再開しており、触れ合う機会も増えてきた。散歩の際には近隣住民と会うこともあり、挨拶を交わしている。保育園児が庭に訪れる機会も多く、行事だけでなく、日常的な交流が普段の生活である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の行事に参加し子ども達の父兄との交流や、庭や周辺の散歩にて地域の方と挨拶からの会話を促している。ホームを開放する事で見学や雰囲気味わってもらい認知症の方を理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6回/年開催し、ホームでの活動や職員研修内容、清陽の動き(入・退居、平均介護度、平均年齢、介護機器等)の報告や認知症に係る現状や課題(ヒヤリハット)を話し合ったりしている。昨年より、少人数の対面式で行っており委員の方との意見交換を行い朝礼等の中で話し合いサービスの改善や向上に努めている。参加できない方には資料を郵送している。	昨年夏より対面で再開した運営推進会議では理念・事業所の取り組みや入居者の状況、課題・ヒヤリハット、職員の研修情報等も報告している。運営推進会議では法人代表も参加しており、行政・地域・事業所との意見交換も行っている。ヒヤリハット報告等では入居者情報はイニシャルで伝えプライバシーにも配慮している。感染症対策を行いながらの開催ではあるが、状況によっては書面による報告の場合もある。	

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	課題や疑問点がある時は、市町村へ出向いたり電話やメールにて質問したり、運営推進会議にて随時担当者の意見等を聞いている。又地域密着型サービス連絡会の研修の中で行政からの話を聞く機会に参加している。ケアマネジャーは認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトとして市の研修に参加したり地域包括支援センターとも協力関係を築いている。	運営推進会議へは市役所及び包括支援センターからの参加がり、日常的な運営の中での報告・連絡・相談は密に行っている。県・市や包括支援センター等主催の会議や研修会にも参加している。地域の困り事等の相談や地域包括支援センターからの依頼・相談等がある場合には協力し対応を共に検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域密着型サービス連絡会の「身体拘束について」の研修や八代市主催の「権利擁護研修会」等の研修を受け、内部研修で全職員が正しい理解を深め身体拘束をしないケアを実践し周知徹底している。1回/3か月身体的拘束適正化検討委員会を開き家族、民生委員、市職員、包括職員、法人理事、職員で話し合っている。	地域密着型サービス連絡会や県・市で代表職員が受講した研修内容は職員研修で全職員に周知している。身体拘束適正化検討委員会は運営推進会議と共に開催している。現在は事例は見られず、職員対応で検討している。特に職員から入居者への言葉遣いには配慮しており、研修時には例を挙げ、他の職員の不適切な声掛けを感じた際に自ら振り返り反省しているかを問い、良いケアのため職員間のコミュニケーションを図り、疑問点は話し合いを重ねることで業務に余裕を持った遂行に向けた共有を行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域密着型サービス連絡会の「虐待防止について」の研修に職員が積極的に出席し又、法人の虐待防止委員会の研修にも担当職員が参加し内部研修にてチェックリストを使用し振り返る事で周知徹底している。又、管理者は職員に対して事業所内での言動に変化が無い声をかけて精神面への配慮を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に個々のスキルアップを図る為に外部研修へ積極的に参加する事を促し、内部研修にて意識の統一を図り職員全員へ周知させている。成年後見制度についても研修に参加して理解できるように促している。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては利用者や家族等にホームの理念や1日の流れ等を説明し、要望を踏まえたケアについて話し合い、解約や改定等についても詳しく説明して十分に理解し納得されるまで時間をかけて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時利用者と玄関先で感染予防し話をする機会を促したり、管理者が家族等に気付いた事がないか聞き出し、家族等からの要望を朝礼等で話し合い、いつでも対応できるよう利用者の状況を把握している。必要時に利用者、家族等から早期の相談と報告ができるように苦情担当者を掲示しいつでも対応できるようにしている。又、家族等が匿名で利用できる「意見箱」を設置したり、運営推進会議にて意見を伺う機会を設けている。遠方の家族等とはラインやビデオ通話にて対応している。	入居者家族の面会や事業所からの電話連絡・報告等を機会に意見・要望を確認している。内容は朝礼や職員会議で共有し、対応を行っている。運営推進会議にも家族の参加があることから、意見を表す機会となっている。事業所からの電話やLINE等で家族との連絡を密に行うことにより、意見を表しやすい関係作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは職員会議の時だけではなく毎日の朝礼時や申し送り時等に随時職員より意見、提案を出すように普段から何でも言い合える職場環境作りをしている。代表者とは1回/月の法人全体の会議により意見、提案を出し話し合っている。感染状況に応じズーム会議の時もある。又、1回/半年の自己評価時意見、要望を書く欄を設け意見を取り上げている。法人全体で職員対象の「権現サポート」が相談窓口として設置されている。	管理者が常駐していることから、職員はいつでも管理者へ意見や提案を伝えることが出来る体制である。毎日の朝礼の他、内部研修でも集まる機会がある。管理者は毎月の法人全体会議、運営推進会議の他随時代表に事業所の状況を伝えている。職員は年2回管理者からの個人面談の機会もあり、法人全職員を対象にした電話相談窓口が設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1回/半年、自己評価及び上司評価を行い目標を設定させ達成度や振り返りを確認し、管理者が面談をして職員個々の努力を把握できるようにしやりがいがもてるように努めている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等で希望者を募り勤務を優遇して職員の意欲を引き出したり、全職員に声かけし参加しやすい環境を作っている。法人全体の新人研修や救命救急の研修、又、挨拶、接遇の研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会の実施する研修に職員が積極的に参加し、認知症ケアに役立て又、他のホーム職員と交流を図り意見交換を行っている。又、交流会が1回/年、予定され管理者、職員が参加し交流を図っているが現在はコロナ過にて控えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があったら、担当ケアマネージャーに連絡を取り、入院先や自宅や施設等を訪問し面接を行っている。本人、家族等にホームを見学しに来て頂き、希望や要望を聞いて又、利用しているサービス事業所があれば関わりのある職員に情報提供をしてもらい信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望を確認する為何度も相談に応じている。グループホームの役割や理念を認識してもらう為にホームの見学時に生活環境のチェック等を行い、同時に要望や不安な所を受け止め検討、改善し信頼関係を築いている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点での本人と家族等の状況を見極め、他のサービス事業所の情報も提案しながら面談している。満床時受け入れが困難な場合でも、家族等に負担がかかっている事を考慮しすぐにでも利用できるサービス事業所や施設の紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で利用者の培ってきた英知を日々学んでいると言う姿勢で人生の先輩であり喜怒哀楽を共にし本人から学んだりして尊厳を尊重し互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から手紙を送付したり、2か月に1回ホームでの様子の写真やお知らせを載せた新聞を発行したりする事で、家族が利用者の生活状況を把握し、共に支えていく関係作りに努めている。現在、玄関先にての面会となっているが今後体調確認の上、居室へ案内し家族との時間を設けたり、ホームの行事や地域の行事には、家族も参加し、楽しい時間を過ごす事で良い関係が深まるよう支援していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も感染状況に応じ家族の希望を踏まえて一緒に以前からのかかりつけ医に受診したり、利用者の家族や親戚だけでなく、知人の面会にも出来るだけ対応しこれまで関わってきた馴染みの関係が継続できるよう努めている。それにより、職員が利用者の以前の生活ぶり等を聞き出しやすい環境が整っている。	この数年コロナ禍で気軽な外出や面会受入れが難しい状況であったが、家族との面会受入れ一時帰宅等の支援は継続している。家族と通院される入居者もおられ、毎週のように面会に見える家族もおられる。事業所周辺は自然豊かな木花も多く、散歩の際には思い出話や季節のこと等、入居者のこれまでの生活を大切に話作りもしている。	コロナ禍で以前のような生活の継続が難しい状況もある中、できるだけ家族との関わりを支援し、感染症を心配しながらも一時帰宅をされた取組みも聞かれました。職員面談でも今年はドライブも再開したいとの希望も聞かれました。是非実現されることに期待します。

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を含めた関係を把握した上で食堂のテーブルを一緒にしている。自然と気の合う利用者同士の関わりには、職員は傍らで見守り、コミュニケーションが取りにくい利用者の間には職員が自然に寄り添い、レクリエーションや会話等して孤立されないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、他の施設へ移られたり入院された時は、施設や病院へ出向いたり、電話で相談等必要とされる利用者や家族へは、随時話を聞いたり、助言にて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で、利用者の希望や意向を汲み取るように心がけ又、家族等の面会時にも以前からの利用者の意向を聞いている。担当職員にて利用者個別のケアプラン立ち上げシートを作成し、全職員が把握できるよう努めている。	入居者の意向や思いは日頃の職員の寄り添いで日々把握しており、家族の意向は面会や連絡時により確認している。担当職員による入居者への日々の課題や気付きを記すケアプラン立ち上げシートを用い、「担当者」による「入居者を見る」ことを大切に共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族等にこれまでの暮らしぶりを聞き、以前のケアマネージャーにも、サービス利用歴を確認している。それらを基に、担当職員によりケアプラン立ち上げシートの作成を行って、全職員がその人らしい暮らしぶりを把握した上で、ケアに取り組めるよう努めている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックと夕方の検温を行い身体状態を把握し対応している。呼吸器系疾患の利用者には加湿器を設置して対策を行っている。又会話や表情、動作にて精神面の状態も把握している。その人らしく過ごせるように、洗濯物やエプロンたたみ等本人の役割りとして出来る事を見つけ出し、出来ないところはさりげなく支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族等に介護に対する要望や今の課題を話し合った上で、問題点や解決策を導き出し主治医にホームでの現状を報告し又、主治医から助言してもらい介護計画を作成している。プランの見直しは更新時は勿論の事、状態に変化が生じた時はその都度、担当職員はケアマネージャーに相談し、本人・家族等と一緒にケアプランの変更を行っている。	介護計画は、長期目標1年、短期目標半年を基本とし、定期的な評価・見直しを行い、入居者の状況の変化により現状に即した介護計画となるように見直ししている。介護計画作成・見直しの際には医師等の意見も得、入居者・家族の意向も反映している。担当者会議には家族も参加する。入居者の「眠れない」等の訴えについては、その原因・元になる背景まで考え、解決に向けた支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容に基づき、日々の様子・変化・行動等の気づきを支援経過記録に記入し、業務日誌にて情報伝達を全職員で行い、介護計画へ反映させている。離苑や転倒の突発的な事態が生じた場合には、直ちに緊急会議を開き、対策等について話し合いをしプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の要望に答えるよう努めている。受診の送迎、付き添いや入退院時の送迎への支援など、本人・家族等の状況・要望に応じて柔軟に対応している。本人が医療が必要な時は家族等に相談し訪問看護を利用し又、看取りの時にも訪問看護を利用している。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方には、2、3ヶ月に1度行っている運営推進会議に参加して頂き地域の情報を聞く機会を設けたりして、地域の方々に協力を得ながら、利用者を支援している。又、近隣の保育園の行事にも参加し、園児の父兄さんとも交流し楽しく過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入居前からのかかりつけ医と連携し、状態など密に連絡を取り合い対応している。又、利用者の状態に応じ、いつでも往診可能な体制を確保し訪問看護等を利用し支援している。入居者の中には、状況に応じ歯科往診による口腔ケアや治療を受けている。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状は協力医への通院が殆どではあるが、それぞれに合わせて支援を行っており、家族に協力頂き通院する入居者もおられる。希望・必要により、歯科医往診による口腔ケア・治療もある。入居者の身体状況によっては訪問看護等も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師が週1回来ホームし利用者の身体状態を一人ひとり確認して処置等行い又、看護・介護職員が異常や気づきを報告し対応策を助言・指示をしてもらい24時間連絡が取れる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、定期的に症状を把握する為に電話で地域連携室や家族等に聞き情報収集に努め早期退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族等・かかりつけ医・訪問看護と一緒に早い段階から話し合い職員には内部研修等にて不安感を取り除き周知徹底している。又、家族から意思確認書を書いてもらいカルテに綴じ、全職員がすぐ確認できるようにしている。その人らしく過ごしていただけるようかかりつけ医・訪問看護・家族等と密に連携を取っている。	入居時に重度化や終末期に向けた方針や事業所の対応について説明し、意思確認を行っている。入居者の状況によっては訪問看護も受入れており、医療機関・家族他関係者と連携し、話し合いを重ねながら支援を行っている。	

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加し内部研修にて全職員が緊急時に適切な対応ができるよう周知徹底している。又、緊急時対応マニュアルや利用者個人の緊急連絡先を作成しすぐに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	業務継続計画(BCP)を作成し、災害時の必要物品を保管し全職員が把握できるようにしている。地震訓練や洪水時避難訓練を行い又、年2回、昼・夜を想定した消防訓練も実施し、点検委託業者の指導にて、消防署の協力の下行っている。緊急時には職員と地域で連携し災害に備えている。	年2回(昼夜想定)の消防避難訓練の他、地震時の机上訓練、洪水時避難訓練も行っている。事業所近くには川も近くにあることから、台風・大雨時についての対策も必要と検討している。地震については、熊本地震で被害を受けた職員の話と共有し、備えている。災害時備えも行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、同じ目線で会話したり言葉使いや対応を気を付けている。又、朝礼や内部研修等で確認し合い、誓約書に職員が署名し個人情報の保護を徹底し、記録等も事務所にて保管している。	職員に対して研修を行い、個人情報保護の制約を交わしている。職員の日頃のケアにおいては、入居者一人ひとりへの声掛けの際には目線を合わせる、敬語を遣う等、具体的な対応について共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせ同じ目線に立ち笑顔で言葉を受け止めている。柔らかい声で話をしながら、時にはジェスチャーや筆談を交えて働きかけ「～しましょうか？」と常に問いかけ自己決定ができるように促している。自己決定できない利用者についても、声かけし意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人個人のペースを把握した上で、毎日希望を伺いケアを実践している。利用者の思いや希望を尊重している為、食事・入浴・就寝・起床時間等は利用者によって異なる時間帯となっている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は意思決定が出来る利用者は決めてもらい、支援が必要な方については毎回意思確認している。髪のカットについては美容師が来ホームし対応している。髪型や長さ等本人や家族の希望を聞いて行っている。又、外出や行事の際も、その時に合わせた服装やおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの庭にある畑の野菜を使うなど、季節の物を揃えバランスの摂れた献立を立て調理に活かしている。きざみ食の利用者には献立の説明を行い提供し、介助が必要な利用者には本人のペースに合わせスプーンの大きさやグリップの種類を検討し対応している。出来るだけ自力摂取を促し困難時には本人の了承を得て介助している。食事を一番の楽しみにされている方が多い為声掛け、会話を取り入れて楽しい食事時間となるようにしている。	法人管理栄養士による関連事業所の献立を利用し、事業所職員の手作りの食事を提供している。事業所内での食事作りの良さも感じており、畑の旬の野菜も取り入れた食事である。介護度が高い入居者も食事時間は食堂に出向き、できるだけ箸を使い、ゆっくりと入居者のペースでの食事となるよう支援している。箸を使うことが難しい入居者には、ムセや飲み込み状況によってはスプーンの大きさ等を変え、できるだけ自力で食事ができるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、バランスの摂れた食事を、一人ひとりに合わせた形態にし提供している。自力にて摂取できない利用者には本人のペースにて食事介助し全量摂取を促し、水分にてムセられる利用者には嚥下補助食品を利用したり、水分補給はお茶のみではなくポカリや紅茶等嗜好飲料にて対応している。食事・水分摂取量はその都度チェックシートに記入し、一日のトータル量の確保を把握している。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアの声かけを行っており自力にてできる所は本人に任せ出来ない所を支援している。義歯洗浄剤を使用して、口臭が気にならないよう配慮し又、必要な方は定期的に歯科往診を依頼し、歯の清掃、歯周病の治療等、専門的な口腔内ケアにて清潔保持に努めている。嗽が出来ない利用者には歯磨きティッシュやスポンジブラシを使用し口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意があるものの訴える事が出来ずに立ち上がったたり、車椅子を動かしたりする利用者には声掛け確認しトイレご案内する。尿意・便意がない利用者に対しては排泄パターンを把握した上で定時のトイレ案内をしている。昼間はトイレを活用し、夜間はパット交換の利用者以外はポータブルトイレやトイレに案内している。	日中は、できるだけトイレでの排泄となるよう、言葉だけでなく仕草や様子にも配慮している。夜間は入居者それぞれの身体状況に合わせ、ポータブルトイレの利用もある。ポータブルトイレを使用される居室では、日中、廊下から見えない場所に置く等、プライバシーへの配慮もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の便秘予防として、野菜を多く取り入れた食事を提供したり、ヨーグルトバナナ等乳製品の提供や、細めな水分補給を行っている。トイレに座る習慣が出来るような環境作り、適度な運動(廊下にて散歩等)も取り入れ、腹部マッサージや腹部をホットタオルで温める等行いながら支援している。又、身体機能によって自力での排泄が困難な利用者に対しては、定期的に緩下剤を使用し、又看護による排便を行い支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態や入浴前のバイタル確認を行い安全で要望に沿った入浴をすることが出来る。ゆっくり入浴して頂く為に入浴時間については、利用者一人ひとりの希望を聞いたり状態に合わせ気分転換と清潔保持に努めている。入浴拒否の利用者も職員を変えたり時間や日にちをずらしたりして対応している。	週2回の入浴を基本とし、入浴時間等はそれぞれに合わせ、ゆったりと過ごして頂くよう支援している。現在は介護度の高い入居者が増えたこともありシャワー浴も多くなったが、足浴を取り入れたリクライニングチェアを利用したりと、できるだけ浴室を利用し、清拭に頼らない清潔保持に努めている。	

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動が夜間の安眠につながるという考えの下で、通常は散歩したりレクレーションやテレビ体操をする事で生活リズムの確立を図っている。車椅子にて長時間過ごされる利用者に対しては臥床を促し、昼寝する時間を提供して居室だけでなくゆっくり寛げるソファなども利用して、気持ちよく過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の服用についてはかかりつけ医の処方箋を全職員が薬剤情報紙にて把握している。1回に複数の薬を服薬される利用者に対しては、薬袋に薬名をつけ、薬が見分けやすいよう配慮している。錠剤が内服困難な利用者については潰して処方してもらっている。誤薬を防ぐ為に二重チェック、三重チェックを行い利用者の前で名前を確認して与薬し、内部研修にて薬剤についての勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が、洗濯物・エプロンたたみや洗濯物干し等これまでの本人の日常生活の役割を自然に継続できるよう取り組んでいる。又、家族等が嗜好品を差し入れしたり、誕生日にはケーキや花やプレゼントを持参されたりする。担当職員で嗜好品を個人購入したりして提供し喜ばれ気分転換にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候がいい日は庭での日光浴や散歩は日課であり、保育園の行事等にも可能な限り見学している。花見等外出の機会を設け、又お正月には自宅にて家族等と過ごし気分転換を図って頂けるように協力してもらっている。	コロナ禍であったことに加え、現在の入居者の身体状況も高くなっていることから、計画による揃っての外出等は難しい状況であるが、近隣の散歩や庭に出での日光浴は日常的である。自然豊かな環境であり、散歩時には季節の木花を楽しんだり、ユニット間の交流もある。家族協力のもと一時帰宅も見られる等、個別支援にも取り組んでいる。	

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の必要経費は全利用者が事業所の立替にて対応している。依頼があれば希望や要望に応じ担当の職員が買い物を代行して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があればいつでも家族等へ電話をし安心されるように支援し、手紙や年賀状等のやり取りも支援している。毎週、面会がある利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の周りは垣根で囲まれ緑が豊富である。西日が当たる食堂は日よけのシェードを設置し直射日光を防いでいる。空気清浄機にて湿度を確認し又、花を飾ったり、季節のレイアウトにて居心地よく過ごせるよう配慮し、ゆとりのある生活が楽しめる空間作りに取り組んでいる。	ゆとりある広さの廊下は、車椅子利用の入居者も安全に移動できる。トイレも多くあり、車椅子でも余裕を持って利用できる造りである。食堂には食卓の他、畳スペースもあり、思い思いの場所で過ごすこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂は、ソファやテーブルの配置に気を配り、一角には、足を伸ばしてゆっくりできる畳スペースを設け共用の場でも一人の空間を保てる配慮を行っている。又、気の合う利用者と集える談話室もあり、居場所作りの工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と相談することで要望に沿った利用者の生活スタイルに合うものへと、臨機応変に対応している。できるだけ本人の使い慣れた家具や写真など馴染みの物を家族に自由に持ち込んでもらっている。	入居時に以前からの馴染みのある生活用品の持ち込みを依頼している。窓から見える田園風景では四季を感じることもできる。居室入り口には入居者それぞれの目印も見られる。消耗品やポータブルトイレは廊下から直接見えないよう置き場所にも配慮している。	

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、利用者が自立した生活を送れるようトイレや浴室だけでなく、廊下など全周にわたり手すりを設置している。又、本人の居室がわかりやすいよう、居室ドアなどにぬいぐるみ等をかけて工夫している。又、言葉掛けや対応の仕方も利用者が混乱しないように一人ひとりに合わせて行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370201008		
法人名	社会福祉法人 権現福祉会		
事業所名	グループホーム 清陽「みずほ館」		
所在地	熊本県八代市場町47番地1		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村報告日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	令和6年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて法人の理念、清陽理念、地域との係わりを示すサブ理念、運営方針を全職員で振り返り確認する為に唱和し、全職員で理念の共有を図り意識を高めている。利用者、家族等に説明したり、運営推進会議の中で紹介したり、新規採用時にも研修にて説明している。1回/月の職員会議でも理念を念頭に置き話し合いを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園のマラソン大会、どんどや等行事がある場合個々の体調及び、事業所の判断、その時の状況にて見学にて参加している。保育園児や近隣の子どもの遊び場として庭を開放する事で利用者と日常的に交流する環境が整っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園の行事に参加し子供達の父兄や地域の行事で参加している方と交流をし、ホームの見学や雰囲気を感じて頂き認知症の方を少しでも理解していただくよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6回/年開催し、ホームでの活動や職員研修内容、清陽の動き(入・退居、平均介護度、平均年齢、介護機器等)の報告や認知症に係る現状や課題(ヒヤリハット)を話し合ったりしている。少人数にて会議を行い委員の方との意見交換を行い朝礼等の中で話し合いサービスの改善や向上に努めている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	課題や疑問点がある時は、市町村へ出向いたり電話やメールにて質問したり、運営推進会議にて随時担当者の意見等を聞いている。又地域密着型サービス連絡会の研修の中で行政からの話を聞く機会に参加している。管理者は認知症サポーター養成講座のメイトとして地域包括支援センターとも協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域密着型サービス連絡会の「身体拘束について」の研修や八代市主催の「権利擁護研修会」等の研修を受け、内部研修で全職員が正しい理解を深め身体拘束をしないケアを実践し周知徹底している。1回/3か月身体拘束適正化検討委員会を開き家族、民生委員、市職員、職員で話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域密着型サービス連絡会等で開催される研修に職員が積極的に参加し又、内部研修でも繰り返し確認する機会をもち意識統一し、日常生活で言動に変化がないか一人ひとり観察の徹底を図り言葉かけ等へも注意を配り精神面への配慮も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修へ積極的に参加することを促し、内部研修にて意識の統一を図り職員全員へ周知するようにしている。チームで話し個々の利用者ごとに必要性を検討することで、より理解を深め、個々のスキルアップにもつなげている。また成年後見制度についても研修に参加して理解できるように促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、ホームの理念や1日の流れを利用者や家族に充分説明し、要望を踏まえたケアについて話し合い、解約や改定等についても詳しく説明して十分に理解し納得されるまで時間をかけて説明し同意を得ている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族等から早期の相談、苦情等がいつでも報告できるよう苦情担当者を掲示いつでも対応できる様にしている。またご家族が利用できる意見箱を設置、面会時には必ず職員が付き現在の状況や思いを話し合うように努め、また運営推進会議にてご家族からの意見や要望等があればできる限り早急に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議の時だけではなく随時、職員より意見、提案を出すように普段から何でも言い合える職場環境作りをしている。代表者とは月一回の法人全体の会議により意見提案を出し話し合っている。感染状況に応じリモート会議の時もある。半年に1回管理者と個人面談も行い、意見や問題点を職務に反映できるようにしている。また法人全体で職員対象の『権現サポート』が相談窓口として設置されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度自己評価及び上司評価を行い目標を設定させ達成度や振り返りを確認し、管理者が面談をして職員個々の努力を把握できるようにしてやりがいがもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等では希望者を募り勤務を優遇して職員の意欲を引き出したり、全職員に声かけし参加しやすい環境を作っている。法人全体の新人研修や救命救急の研修、また挨拶や接遇の研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会の実施する研修に職員が積極的に参加し、認知症ケアに役立て又、他のホーム職員と交流を図り意見交換を行っている。ラン伴の運営にて他事業所の管理者と協力し成功する事ができ又、交流会が1回／年、予定され管理者、職員が参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があったら担当ケアマネージャーに連絡をいれ、入院先や自宅に本人を数回訪ねたり見学に来て頂くなど利用までに面識を持ち、本人の要望を聞く。又、利用しているサービスがあればかわりのある職員に、情報提供を依頼し、本人の要望、状態の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望を確認する為何度も相談に応じている。グループホームの役割や理念を認識してもらう為に、ホームの見学時に生活環境等のチェックを行い、同時に要望や不安な所を受け止め検討、改善し信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点での本人と家族状況を見極め、他のサービス機関の情報も提案しながら面談している。満床時、受入が困難な場合でも、家族に負担が掛かっている事を考慮し、すぐにでも利用できるサービスや施設の紹介に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の今まで培ってきた英知を日々学んでいるという姿勢で、日常生活をできるだけ一緒に行うよう心がけている。又、些細な事にも傾聴し、利用者本位の思いや感情を受け止めることでより良い関係の構築に繋がるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から手紙を送付したり2か月に1回ホームでの様子の写真やお知らせを載せた新聞を発行したりする事で、家族が利用者の生活状況を把握し、共に支えていく関係作りに努めている。現在、玄関先での面会となっているが、今後体調を確認し、居室へ案内し家族との時間を設けたりホームの行事や地域の行事には、家族も参加し、楽しい時間を過ごす事で良い関係が深まるよう支援していきたい。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族だけでなく、知人の方の再度の訪問も増えてきており、利用者のこれまで関わってきた馴染みの関係を継続できている。それにより、職員は知人の方からも馴染みの人や場所等を聞き出しやすい環境が整っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を含めた関係を把握した上で、自然と気の合う利用者同士の関わりには、職員は傍らで見守り、コミュニケーションが取りにくい利用者との間には自然に寄り添い、レクリエーションなど孤立されないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、相談等必要とされる利用者や家族へは、随時話を聞いたり、助言にて対応している。又、入院している利用者のもとへ出向き、利用者や家族への面会も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で、利用者の希望や意向を汲み取るように心がけている。思いや意向を伝えることが難しい方は、ご家族と改めて相談、聞き取りを行い、これまでの暮らしぶりや生活習慣を検討するなどして、把握に努めている。また利用者個別のケアプラン立ち上げシートを作成し全職員が把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者にこれまでの暮らしぶりを聞き、以前のケアマネージャーや家族等に、必ずサービス利用歴を確認している。それらを基に、「アセスメントシート」や「サービス計画書」を作成、全職員がその人らしい暮らしぶりを把握した上で、ケアに取り組めるよう努めている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックと夕方の検温を行い身体状態を把握し対応している。又会話や表情、動作にて精神面の状態を把握している。血圧に変動が見られるお客様は入浴等の前にもバイタルチェックを行っている。その人らしく過ごせるように、一日の細やかな行動を知り、出きる事を見つけ出し、出来ないところはさりげなく支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族と介護に対する要望や今の課題を話し合った上で、職員間でミーティング、ケアカンファレンスを行い、問題点や解決策を導き出し、主治医にホームでの現状を報告し又、主治医から助言してもらい介護計画を作成している。プランの見直しは更新時は勿論の事、状態に変化が生じた時は、その都度、担当職員はケアマネージャーに相談し、本人・家族等と一緒にケアプランの変更を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容に基づき、日々の様子・変化・行動等の気づきを支援経過記録に記入し、業務日誌、申し送り帳にて情報伝達を全職員で行い、介護計画へ反映させている。離苑や転倒の突発的な事態が生じた場合には、直ちに緊急会議を開き、対策等について話し合いをしプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に答えるよう努めている。受診の付き添いや入院時の早期退院への支援、本人・家族の状況・要望に応じて柔軟に対応している。本人が医療が必要な時や看取りの時に訪問看護を利用することもある。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方には、2、3ヶ月に1度行っている運営推進会議に参加して頂き、地域の情報を聞く機会を設けたりして地域の方々に協力を得ながら、利用者を支援している。近隣の保育園の行事にも参加し園児の父兄さんとも交流し楽しく過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入居前からのかかりつけ医と連携し、状態など密に連絡を取り合い対応している。又、利用者の状態に応じ、いつでも往診可能な体制を確保し訪問看護等を利用し支援している。入居者の中には状況の応じ歯科往診による口腔ケアや治療を受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師が週に1回来ホームし利用者の身体状態を一人ひとり確認して処置等行い又、看護・介護職員が異常や気づきを報告し対応策を助言・指示をしてもらい24時間連絡を取れる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、定期的に病院へ出向き症状を把握して、電話でも家族へ聞いたりし情報収集している。又、医師と家族の話し合いに同席し早期退院に向け準備している。病院に出向いた時は地域連携室を訪室し情報収集を行っている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態の変化に応じて、その都度、事業所でできることを説明しており、本人・家族・かかりつけ医、訪問看護と一緒に事前に話し合いを行い、方針を検討している。又、状態の変化に応じ記入してもらった、本人・家族からの意思確認書をカルテに綴じており、全職員がいつでもすぐに確認できるようにしている。その人らしく過ごしていただけるようかかりつけ医・家族等と密に連絡を取り合うことで連携強化を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加し内部研修にて全職員が緊急時に適切な対応ができるよう努めている。又、緊急時対応マニュアルや利用者個人の緊急連絡先を作成しすぐに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	洪水時や地震等を含む災害マニュアルを作成し、全職員が把握できるようにしている。地震訓練や洪水時避難訓練を行い又、年2回、昼・夜を想定した消防訓練も実施し、点検委託業者の指導にて、消防署の協力の下行っている。緊急時には職員と地域で連携し災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、同じ目線で会話をしたり言葉かけを行い、言葉使いや対応に常に気を配った対応に努めている。又、朝礼や職員会議などで確認し合い誓約書に職員が署名し個人情報の保護を徹底し記録等も事務所に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースに合わせ同じ目線に立ち、柔らかい声で話をしながら、時にはジェスチャーや筆談を交えて働きかけ「-しましょうか？」と常に問いかけ自己決定できるよう促している。自己決定が出来ない利用者についても、声を掛けたりご家族に意見を聞くなど意思を尊重するようにしている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人個人のペースを把握した上で、毎日希望を伺いケアを実践している。利用者の思いや希望を尊重している為、食事・入浴・就寝・起床時間等は利用者によって異なる時間帯となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は職員が毎日お客様と一緒に天候や気温に考慮し意思確認後決定している。髪形については散髪依頼をしホーム内で長さなどを聞き行って頂いている。又、外出や行事の際も、その時に合わせた服装やおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの庭の畑の野菜を使うなど、季節の物を揃えバランスのとれた献立を立て調理に生かしている。刻み食の利用者には献立の説明を行い提供し介助が必要な利用者には本人のペースに合わせスプーンの大きさを検討し対応している。食事を楽しみにされている方が多い為楽しい時間となるよう心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、バランスの摂れた食事を、一人ひとりに合わせた形態にし、提供している。自力にて摂取できない利用者には食事介助し全量摂取を促し水分にてムセられる利用者には嚥下補助食品を利用している。食事・水分摂取量はその都度チェックシートに記入し、一日のトータル量の確保を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアの支援を行っており、義歯洗浄剤を使用して、口臭が気にならないよう配慮している。又、必要な方は、定期的に歯科往診を行い、舌苔の除去等、専門的な口腔内清掃にて、清潔保持に努めている。うがいができない利用者には歯磨きティッシュを使用し口腔ケアを行っている。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しトイレへ案内している。昼間はトイレを活用し、夜間はオムツ希望の利用者以外は、トイレに案内している。行動を観察しその都度、場所を工夫しながら案内している。パット内に排泄される方は尿量に合わせ使用するパットを随時検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄パターンを記録するだけでなく、便秘予防として、乳製品の摂取や、細めな水分補給、トイレに座る習慣ができるような環境作り、適度な運動も取り入れながら支援している。又、身体機能によって自力での排泄が難しい利用者に対しては、主治医や薬剤師、訪問看護と相談しながら定期的に腹部のマッサージを行って排泄を促し、体調を崩されないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態や入浴前のバイタル確認を行い安全で要望に沿った入浴をすることが出来る。ゆっくり入浴して頂く為に入浴時間については、利用者一人ひとりの希望や状態に合わせて気分転換と清潔保持に努めている。ゆず湯や菖蒲湯など季節感も味わって頂けるよう工夫している。入浴拒否の利用者には時間をおいて再度声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動が夜間の安眠につながるという考えの下で、通常は散歩したり保育園児と交流するなど、生活リズムの確立を図っている。昼寝を希望される時には、居室だけでなくゆっくり寛げるソファなども利用し、気持ちよく過ごせるよう支援している。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用については、全職員が対応できるよう、薬剤情報紙を活用し、把握している。1回に複数の薬を服薬される利用者に対しては、薬袋に薬名をつけ、薬が見分けやすいよう配慮している。服薬後は必ずチェック表に記録し、利用者の身体状態に変化のある場合は、かかりつけ医に相談し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が、洗濯物たたみやテーブル拭きなどこれまでの本人の日常生活の役割を自然に継続できるよう取り組んでいる。嗜好品の家族からの差し入れ、誕生日の贈り物など喜ばれ気分転換にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	気候がいい日は庭での日光浴や散歩は日課であり例年は保育園へは交流を目的に出かけて行事等にも積極的に参加している。初詣やお花見など季節に応じた外出の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の必要経費は全利用者が事業所の立替にて対応している。コロナ禍にて利用者本人が買い物に行くことは控えているが、依頼があれば希望や要望に応じ担当の職員が代行して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があればいつでも家族等電話をし安心されるよう支援している。又、希望があれば手紙や年賀状のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂からは田んぼが見わたせ、また紅葉などの木々の色合いで四季を感じると共に、木々を透しての柔らかい日差しが入ることにより心地よい雰囲気である。また、畳のスペースでは洗濯物たたみやごろ寝ができるなど居心地よく過ごせるよう配慮し、ゆとりのある生活が楽しめる空間作りに取り組んでいる。		

グループホーム 清陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂は、TVや、テーブルの配置に気を配り、一角には、足を伸ばして横になれる畳スペースを設け共用の場でもしきりを用いて一人の空間を保てる配慮を行っている。又、畳スペースは気の合う利用者と集える場でもあり、和やかな居場所作りの工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と継続して話し、以前の生活に沿った利用者の生活スタイルに近づけるように臨機応変に対応している。できるだけ本人の使い慣れた家具や写真など馴染みの物を家族に自由に持ち込んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、利用者が自立した生活を送れるようトイレや浴室だけでなく、廊下など全周にわたり手すりを設置している。また、ご自分の居室がわかりやすいよう、居室ドアなどに、利用者が職員と一緒に作成した名札や人形などをかけ、分かりやすく、又、愛着がもてるように工夫している。又、言葉掛けや寄り添いも、利用者が混乱しないよう時間やタイミングを、一人ひとりに合わせて行っている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホーム清陽

令和 6 年 3 月 26 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	新型コロナ感染拡大防止にて地域との交流を控えていたが、今後は以前の様な取り組みを行っていききたい	地域の行事の参加や野外活動を積極的に行う	人との接触が少ない場所への野外活動を行う（四季それぞれの花見等）	1 年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。